

みやわき経済3分レポート(No.115)(2026.9.28)

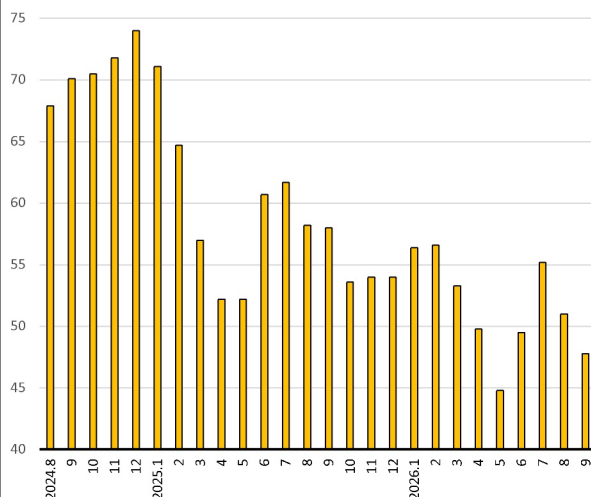
《米国インフレ圧力》

日本政策総研代表取締役社長 宮脇 淳

米国消費者信頼感指数悪化

ミシガン大学「消費者信頼感指数」によると、2026年9月の指数は、47.8となった。前月の51に比べて悪化した。悪化要因として、米国・イラン紛争がホルムズ海峡から紅海マンデブ海峡に拡大し、原油価格が高騰したことが挙げられる。さらに、イエメンのフーシ派が勢いを増し、原油の代替輸送手段であるサウジアラビアのパイプラインへの被害拡大が影響している。依然として、エネルギー問題を中心に世界経済は不安定な状況にある。

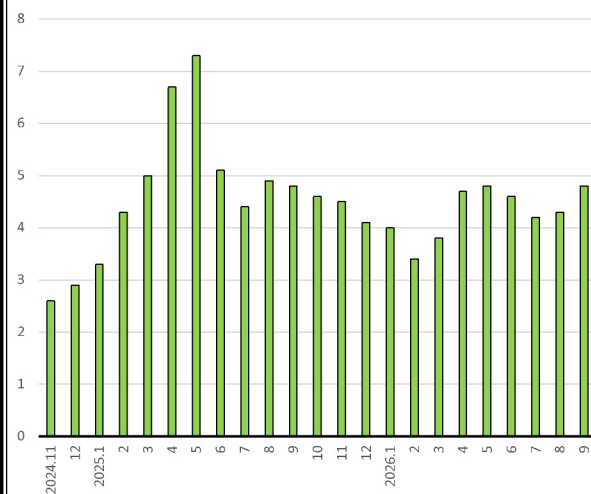
米国消費者信頼感指数



米国期待インフレ率上昇

ミシガン大学「期待インフレ率調査」によると、2026年9月の期待インフレ率は4.8%に大きく上昇した。2026年2月に3.4%まで低下した米国民の期待インフレ率は再び5%に迫る水準となった。ガソリン等エネルギー価格の上昇に加え、食料品等生活必需品のインフレ圧力が再び加速していることが背景にある。11月の米国中間選挙に向けて、国民生活の質的改善は大きな争点となっており、トランプ政権の政策展開が注目される。

米国期待インフレ率（前年比%）



米国消費者物価高止まり

米国労働省「消費者物価指数」によると、2026年9月の総合指数は前年比3.4%上昇となり、高水準で横ばいとなった。米国のインフレ圧力は強く、FRBは0.25%の政策金利引上げを9月15～16日の会合で決定している。FRBは中期的に2%台の物価水準に低下するものの、足元では3%台で依然として価格上昇圧力が強く、インフレ抑制重視の引締め政策が必要と判断している。利下げを求めるトランプ政権との溝が、拡大している。

米国消費者物価指数総合（前年比%）

